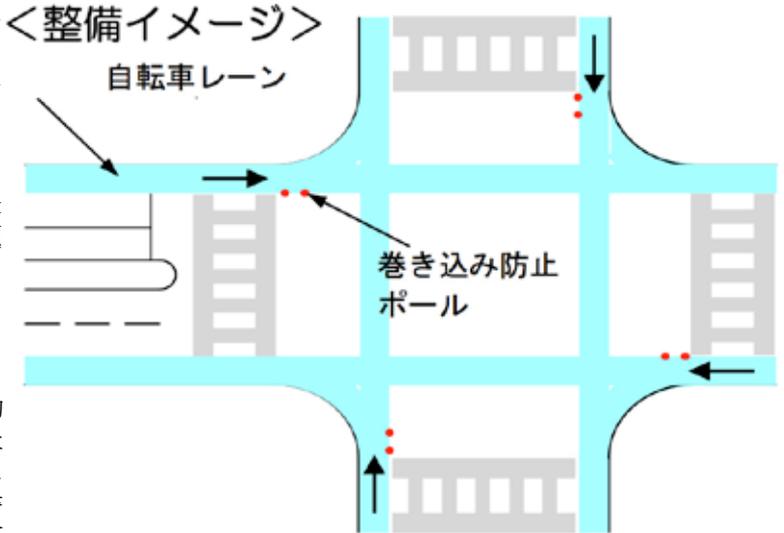


特集 自転車との共存を (社)日本自動車工業会が 意識改革を報告書で提言

自動車メーカーが組織する社団法人日本自動車工業会は、2009年3月「自転車との安全な共存のために――安全に通行できる道路整備と意識改革を目指して――」と題する報告書を発表しました。2008年4月から有識者からのヒアリングや国内外の現地調査などを行い、1年がかりでとりまとめたものです。ちなみに最初のヒアリングにはNPO自転車活用推進研究会からは小林事務局長が招かれ、NPO自活研としての取り組みや問題点について講演し、その内容の多くが反映された報告書となっています。

報告書のなかで提案されている信号のある交差点での自転車通行カラー舗装のイメージ図。自転車の車道左側通行の原則に基づいて考えられている。



●鮮明な問題意識

日本自動車工業会は二年前の2007年5月、「効果的な交通安全対策の実現のために――本格的少子高齢化社会の到来を控え、交通事故の画期的削減に向けて行政に強力に取り組んで欲しい交通安全対策」と題した報告書を公表しています。このなかで、対策の視点として①高齢者対策②歩行者・自転車対策③生活道路・エリア対策の3点をあげ、交通事故死者に占める歩行中及び自転車乗車中の交通事故死者数の割合で先進国中トップの44.9%に達している現状を改善する方策を示しています。

具体的な取り組みとして、たとえば欧米で増えてきている「ゾーン30」のわが国への導入を提案しています。この3月に警察庁がまとめた規制速度検討委員会(47号、48号で既報)が打ち出した、生活道路でのクルマの30km以下規制を可能とする方針に大きな影響を与えたと考えられます。まだ、わが国では面(ゾーン)としてではなく、あくまで線(道路)での規制を模索する方向であることは残念です。ドイツやフランスでは、ゾーン30を可能とする法律改正は1990年に行われており、わが国ではこれからようやく議論が始まる段階です。



また、道路を単なる通行のための用途に限定するのではなく、人々の生活空間としてとらえ直そうとする意図が明確に示されていました。欧州で一般化してきた「チャイルド・ストリート」をいち早く取り上げて紹介するなど、世界中に販売や開発のチャンネルを持つ自動車メーカーならではの切り口で高い評価を得ました。

●信号のある交差点は「直進」こそ安全

今回、自転車に特化した報告書がまとめられた背景には、エネルギー高騰、少子高齢化、環境・健康を意識したライフスタイルへの転換など自転車利用がますます進む社会状況への認識があります。提言はより明確となり、①安全・円滑な自転車通行空間の

確保②自転車の車道通行③自転車利用者・自動車ドライバー双方へのルール・マナー指導の3点を掲げています。

注目すべきは信号交差点での右左折事故を分析し、車道を走ってきた自転車が自転車横断帯を通行しなければならない規定によって、かえって巻き込み事故に遭遇しやすくなる危険を指摘し、むしろ交差点内に自転車が直進できるカラー舗装を提言するなど、自動車ドライバーからの自転車の視認性を向上させる施策を提案していることです。これはNPO自転車活用推進研究会がかねてから主張していることですが、なかなか見直しに着手できない行政側に対して、民間の自動車メーカー側から声があがったことは画期的でした。自転車の走行空間を明確にすることは、自動車にとっても安全で快適な通行の実現に近づくことにつながるとしています。今後、交差点の設計や交通規制について見直しが始まるのが期待できそうです。

●自転車・自動車利用者双方の意識改革を

一向に減らない自転車事故ですが、その約7割までに自転車利用者側の交通違反が認められるという困った実態があります。安全教育の徹底が求められるとしている一方で、クルマ側のルール違反によって自転車の通行が妨げられている事実についても指摘しており、幼少期からのルールの周知徹底と、クルマと自転車の運転者が互いに安全を確認し合うマナーを呼びかけています。

急激な高齢化にともない国民の健康意識が高まり、着実に上昇する原油価格、リーマンショック以降の世界同時不況、環境問題など自転車利用が増える社会状況にありながら、自転車を取り巻く国や地方の政策は、ほころびを繕う対処療法の段階にあります。目前に迫った総選挙で自転車や歩行者を優先する交通政策をマニフェストに盛り込む政党が登場するかどうか、働きかけを強めるとともに注目していきたいものです。

■これらの報告書は日本自動車工業会のホームページ「クルマと安全」の項目のなかからダウンロードできます。

<http://www.jama.or.jp/index.html>

タンデムを全国で使えるようにしたい

JCA（財）日本サイクリング協会が研究に着手
各地でタンデムサイクリング大会開催も



2005年にベルギー・ブリュッセルで見かけたタンデム。夫婦で犬を連れてパン屋に買い物に来た。ヨーロッパ一周もこれで行くという。

●全国でタンデムの解禁を

（財）日本サイクリング協会では、6月12日からタンデム自転車安全活用のための研究会をスタートさせました。専門家による議論と、障害者でも参加できるタンデムサイクリング大会などを通じてその有用性を各方面にアピールしたり、条例で禁止している自治体に対しては禁止理由を、認めている自治体には容認理由を調査し、改善研究の後に報告書に纏め、全国走行解禁に向け改善報告書を関係各所に配布する計画です。事業は3年計画で、自転車利用の拡大と、さまざまな楽しみ方の提案をしていきたいとしています。

タンデム車は複数の座席とペダルを装備し、複数人が前後一列に乗車して同時に駆動をかけて走行できる自転車です。主に2人乗りですが3人、4人、5人の車種もあります。乗っている人が全員ペダルを踏むため、1人乗り自転車より強い推進力が出せ、2番目以降の人は空気抵抗を受けにくく高速走行できると言われています。19世紀の一時期、世界的に流行したのですが、第一次、第二次世界大戦を挟んで廃れていきました。近年、技術の進歩によって性能が向上し、ランドナー、MTB、ロードレーサー、リカンベントなどさまざまなタイプのタンデムが登場しています。パラリンピックではタンデムレースが開催され



タンデム解禁は自転車生活を大きく変えるかもしれません

ており、視力障害者のサイクリストの競技があり、2回目の東京オリンピックが実現すれば、なぜ禁止されているの？と議論になることは必至。競技人口の育成にも支障が出てきます。

●ばらばらで合理性を欠いた規制

国内では、道路交通法施行細則または道路交通規則など都道府県公安委員会規則で一般公道でのタンデムサイクリングが禁止されている（あるいは明確には認められていない）場合が多いのですが、長野県道路交通法施行細則では、「2人乗り用としての構造を有する自転車に運転者以外の者1人を乗車させる場合」を乗車人員制限の例外としているため、2人乗りタンデム車が一般公道を通行することがはっきりと認められています。他の地域でも、車輪の数によって、あるいは自転車道路（一般にサイクリングロードと呼ばれる「自転車専用道路等」のこと）やサイクリングイベントなどでタンデムサイクリングが認められる場合があります。もちろん、普通自転車ではないので、歩道通行などはできません。兵庫県では2008年7月1日から県道路交通法施行細則の一部改正により公道走行が可能となっています。兵庫タンデムサイクリングを楽しむ会」（兵庫県障害者タンデムサイクリング協会主催）が1年前から武庫川サイクリングロードで開催され、視覚障害者など一人では乗ることの出来ない人たちにサイクリングを楽しんでもらうイベントが高く評価されたためと言われています。

●自転車市民権の一つ

東京のパレスサイクリングコース、神宮外苑サイクリングコース、代々木公園や横浜市のこどもの国などではコース内に限り走ることができます。このほか、山形県や栃木県などでも、タンデム自転車のイベントが計画され、地元の警察が許可するケースも増えてきています。

ただ、ほとんどの自治体が禁止してきたため、既にタンデム自転車を製造販売する大手メーカーは皆無となり、小規模メーカーや自転車ビルダーに特注するか、海外製品を購入するしかないのが現状です。

NPO自転車活用推進研究会としては、研究会（座長：吉田章つくば大教授/NPO自活研会員）に委員として参画し、さまざまなタイプの自転車を楽しむことが出来る環境づくりも「自転車市民権確立」の大切な要素だとして自転車活用が進むよう努力していきます。

ツーキニスト講座

押して帰る途中の事故

<ケース> Aさんは業務終了後、社内にある施設で開かれた災害防止委員会に出席、終了後、懇親会で飲酒。午後8時ごろ解散してから自転車を押して帰宅途中、国道沿いの側溝に転落し溺死した。労基署は通勤災害とは認められないと判断したが、Aさんの妻は再審査を請求。

<妻の主張>「普段の飲酒状態からみて、Aは泥酔するほど酒を飲まない。正常な状態であれば溺死するような場所ではない。Aは弱視で、照明もなく、雨が降っており、しかも、もやが深く見

通しが悪いなどの悪条件が重なった」

<審査会の状況判断>明らかに泥酔している状態で通行することは合理的な方法とは認められないが、本件の場合、Aさんは自転車に乗らず押して歩いており、同僚も酔ったようには見えなかったと述べている。同僚との飲み直しにも加わっておらず、泥酔していたとは認められない。

<結論> Aさんは酒は飲んだが、酩酊状態であったとは認められず、労基署の「合理的な方法でなかった」という判断は、社会通念からみて妥当ではない。本件の死亡事故は通勤災害として扱われることが妥当である。

（竹末洋三「認定をめぐる業務上および通勤上の災害に関する問答」(「人事管理 REPORT」08年2月1日号をもとに再構成)

【ここに注目！】

道路のでこぼこで転倒したら国の責任か？！

6月17日、静岡地裁で2003年9月、静岡県藤枝市内で当時20歳の男性が小型バイクで国道1号を走行中、街路灯に衝突し、重体となり、その後も寝たきりとなった事故について、道路の管理に瑕疵（かし）があったと国に約6800万円の損害賠償を命じた判決がありました。車道外側線の車道側に最大約2.5cmのくぼみ、外側線の歩道側が最大で4.5cmほど盛り上がっていたとのこと。この計7cmほどの起伏によってバイクがバランスを崩し、歩道に設置していた街路灯に衝突したと静岡地裁が認定。男性と家族は約1億9600万円の損害賠償を求めていましたが、男性の前方不注意も事故の一因として減額されています。まだ決着したわけではありませんが、これが認められるなら、車道左端部のU字溝のふた、鉄



製のすのこ、マンホールふた、コンクリートとアスファルトの継ぎ目、植栽の根による盛り上がりなど、自転車利用者を悩ますでこぼこはみんな有罪。交差する道路を乗り越えて歩道を疾走するママチャリであっても、車道部分から歩道に乗り上げる瞬間は徐行でなくても良い理屈なので、このとき転んだら訴える人が出てくるかも。

そもそも道路が常に平坦ではないことは常識であり、この程度の起伏で事故を起こすのは運転者が未熟なためか無謀運転が原因という指摘もあり、甘すぎる判決を批判する声もあります。一部では自動車の最低車高が規制緩和によって規程が無くなったため、わざと起伏で車底をこすって道路整備担当に文句を付け、なにがしかを脅し取る輩もいるとのこと、道をつくる方も苦勞が絶えないようです。

これからどんどんと高齢化していくわが国の交通環境を考えると、ここ数年で車道と歩道の段差すら無くしてしまった欧州の街づくりを見習う必要もありそうです。

それにしても段差だらけの日本では、くれぐれも無謀な運転は御法度。安全第一で自転車生活を楽しんでください。

それにしても段差だらけの日本では、くれぐれも無謀な運転は御法度。安全第一で自転車生活を楽しんでください。

訃報 【文責：小林成基】

石田久雄氏死去。NPO自転車活用推進研究会の創立者のひとりで、月刊自転車DO!の創刊からの編集長、自転車活用研究会の委員長として活躍していた石田副理事長が、6月3日未明、膵臓ガンのため67歳で逝去しました。6年前にもガンが発見されましたが、仕事を続けながら闘病生活を送り、見事に克服し完治宣言にこぎつけたのですが、昨年、新たに膵臓ガンが発見され、今回は乗り越えることができませんでした。昨年春から闘病中もずっと機関誌の編集を担当し、5月15日発行の第48号が絶筆となりました。

日本経済新聞の記者として環境問題などを中心に取材した他、テレビの経済分野の解説を担当し、雑誌の編集長も努めるなど多才ぶりを発揮。最後まで反骨精神を貫いたジャーナリストらしいジャーナリストでした。2000年に自転車の活用についての研究会が必要との共通認識を得て、研究母体を設置。実質的に研究会を私と二人で切り盛りすることになりました。環境・健康・交通・経済・観光・高齢化と6つのKがすべて自転車の方向を向いていること、自転車の健全な活用を推進することは「世直し」でもあること、時代は必ずその方向へ向かうが必要なのは先回りして準備すること、といった現在のNPO自活研の方針を決定づけた存在でした。

2005年には古倉宗治理事に海外事情を担当してもらって、私と三人で「自転車『市民権』宣言」を出版。それまでの自転車本とは一線を画した政治や行政、ライフスタイルまでを視野に置いた切り口で多くの仲間を増やすことに成功しました。また、2008年からは「自転車検定」を創設して、自転車に関する知識と考え方の流布に努めました。

NPO自転車活用推進研究会では有志により、石田副理事長の68歳の誕生日にあたる6月29日に事務所で追悼サロンを開催。43名が出席し、まさに立錫の余地もない盛会となりました。

た。お会いする機会を得られなかった会員の方も多しとおもいますが、故人の目指した自転車市民権獲得運動の精神をぜひ受け継いでいただきたいと願ってやみません。



これしか飲まないと言っていたスコッチウイスキー「デュワーズ」を傾けながら語る石田久雄副理事長。と言いつつもにこにこしていました。飲んだら当然、乗らないので、愛車「TokyoBIKE」になかなか乗れないのが悩みのタネでした。

■お詫びとお知らせ

残された事務局の能力不足のため機関誌の編集発行が遅れました。また、6月にリニューアル・スタートを予定していた新生自転車検定も数カ月の遅れを余儀なくされております。深くお詫びするとともに、今後ともご指導ご協力をお願い申し上げます。〈あらかさんのイラストは今号はお休みです〉

●月刊自転車DO!は50号から、毎月1日発行のメールマガジンとして再出発する予定です。みなさまからの情報、ご意見、素朴な疑問など、記事のネタをお待ちしています。

佐藤宜秀の天網恢々

このコーナーは会員の佐藤宜秀さんがネットサーフィンで見つけた自転車関連の記事のリンク先をリスト化しています。【ご注意】天網恢々疎にして漏らさずという言葉がありますが、ご紹介したリンク先は漏れている場合や短期間で削除されてしまう場合があります。紙面でご紹介するのは編集部で取捨選択した一部です。情報メルマガをご希望の方は下記にアクセスして登録してください。

http://groups.yahoo.co.jp/group/bicycle_news/

【図書発刊】

- 「自転車交通の計画とデザイン」<http://www.chiikikagaku-k.co.jp/j-forum/honn35-1.html>
- 自転車と健康になる(単行本(ソフトカバー))http://www.nikkeibook.com/book_detail/16700/

【トピックス】

- 自転車そのまま持ち込みやめて 首都圏鉄道各社ポスター <http://www.asahi.com/national/update/0629/TKY200906290344.html>
- 自転車通勤手当について <http://www.soumunomori.com/forum/thread/trd-80547/>
- 自転車自ら走行空間をアピールする light lane プロタイプお披露目(英文) <http://www.autobloggreen.com/2009/06/23/lightlane-adds-instant-bike-lane-for-night-bicycle-rides/>

【国内地域ニュース】

- 減クルマで盛岡市長は自転車通勤 <http://www.iwanichi.co.jp/ken/item.12887.html>
- 道路も楽天カラー 仙台・宮城野道の自転車道に採用 <http://www.kahoku.co.jp/news/2009/06/20090629t13030.htm>
自転車通行環境整備モデル地区の1つです。
- サイクルトレイン：福島交通飯坂線で導入へ試行 自転車持ち込みOK <http://mainichi.jp/area/fukushima/news/20090630dtk107040170000c.html>
- 自転車専用通行帯：川越に 観光客や住民の事故防止……評判上々 <http://mainichi.jp/area/saitama/news/20090627dtk1104030000c.html>
- 歩車分離信号 高齢者に不便(立川) <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tokyotama/news/20090626-OYT8T00124.htm>
- 自転車で市内巡りを 無料貸し出し開始 JR新富士駅 <http://www.shizushin.com/news/local/east/20090630000000000021.htm>
- 住民困惑、大量の自転車 津・上浜の近鉄江戸橋駅周辺 <http://www.chunichi.co.jp/article/mie/20090620/CK200906202000017.html>
- 「車で福井市中心へ」9割 まちづくり福井の調査 <http://www.chunichi.co.jp/article/fukui/20090703/CK2009070302000022.html>
- 駅前の駐輪場が完成 JR堅田 区画整備で一新(滋賀) <http://www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P2009070300071&genre=A2&area=S10>
- 自転車使いエコ推進 篠山で8月、社会実験(兵庫) <http://www.kobe-np.co.jp/news/tanba/0002063795.shtml>
- 道の魅力を感じて/88サイクル駅伝参加募集(四国) http://www.shikoku-np.co.jp/kagawa_news/locality/article.aspx?id=20090702000112
8月8～16日実施、7/10締切
- CO2削減型観光企画 沖縄総事務局「オフセット」導入 http://www.okinawatimes.co.jp/news/2009-06-19-M_1-009-1_005.html

【海外各国ニュース】

- ソウル地下鉄 10月から自転車持ち込み可能(実験中の写真：聯合ニュース) <http://www.wowkorea.jp/news/Korea/2009/0628/10059130.html>
- 交差点に自転車用の日除け設置、マナー改善も-河南(中国) http://news.searchchina.net/jp/disp.cgi?y=2009&d=0628&f=national.0628_018.shtml
- インドネシアジャカルタでも自転車通勤(英文) <http://thejakartaglobe.com/news/toto-dreams-of-using-pedal-power-to-clear-up-jakartas-streets/314165>



- 建築設計事務所を営むバク・ト氏が始めた自転車通勤運動、賛同するメンバーは11千人。ユドヨ大統領、ジャカルタ市長も応援。
- 仏パリ・ヴェリブ郊外に拡張、ヴァンダリズム対策強化も(英文) <http://www.bike-eu.com/news/3476/vandalism-not-stopping-paris-cycle-hire-scheme.html>
- 今年末までに3,300台増強。
- 独ミュンヘンの自転車ショー都市内交通手段となることをアピール <http://www.bike-eu.com/news/3474/bike-expo-targets-urban-mobility.html>
- http://www.bike-expo.com/prj_45/view/index.cfm
- オーストリア・ザルツブルグ電動自転車長期レンタルサービス開始(英文) http://www.eltis.org/show_news.phtml?newsid=1529&mainID=461
- 1年以上契約で月29.9ユーロ(約4千円)。
- オランダで電動自転車が急速に普及中(英文) <http://www.bike-eu.com/news/3472/netherlands-e-bikes-market-share-surgin.html>
- 蘭阿姆斯特ダムでは自転車利用が自動車を上回る(英文) <http://www.bike-eu.com/news/3469/amsterdam-more-trips-by-bike-than-by-car.html>
- <http://blog.oregonlive.com/commuting/2009/06/in-amsterdam-more-trips-now-by.html>
- '05～'07の間、市民1人あたりのトリップ数で自転車0.87に対し自動車0.84とのこと。
- ロンドン市長 駅の自転車駐車場整備に意欲的(英文) [standard/article-23714065-details/Boris+Johnson%3A+Cycle+parking+is+simply+not+good+enough/article.do](http://www.thisislondon.co.uk/</div><div data-bbox=)

○英鉄道駅への駐輪施設拡充に基金創設(英文) <http://www.eta.co.uk/2009/06/24/rail-stations-become-%E2%80%98cycling-hubs%E2%80%99>

<http://www.dailymail.co.uk/news/article-1195293/High-speed-railway-link-north-south-priority-Britain-says-Lord-Adonis.html>

5百万ポンド(約7.9億円)で主要駅が自転車のハブ(中心軸)となることを目指す。

○アイルランド・ダブリンのバイクシェア(英文) <http://www.irishtimes.com/newspaper/weekend/2009/06/13/1224248748656.html?via=mr>

3年前にJCドゥコーを運営者と決め、450台、50ステーションの計画の目も準備しているが、市民の理解もいま一つ。ようやくこの9月開始の予定。

○スイスローザンヌでバイクシェア開始(英文) <http://bike-sharing.blogspot.com/2009/07/bike-sharing-as-sweet-as-swiss.html>

165台、14ステーションで7/15に開始。ステーション建設の映像が妙におしゃれ。

○スペインで自転車都市ネットワーク結成 http://www.eltis.org/show_news.phtml?newsid=1525&mainID=461

○現地語(カタロニア語)から英語にGoogle翻訳したものが↓です。

http://translate.google.co.jp/translate?hl=ja&sl=auto&tl=en&u=http://www.sostenible.cat/sostenible/web/noticies/sos_noticies_web.php?3Fcod_idioma%3D1%26seccio%3D6%26num_noticia%3D443596

○カナダの首都オタワでもバイクシェア導入(英文) <http://www.montrealgazette.com/Bike+sharing+touted+capital+idea/1683573/story.html>

○カナダで自転車購入補助制度(英文) <http://www.cyclelicio.us/2009/07/happy-canada-day.html>

<http://www.retireyourride.ca/>

○カナダ・モントリオールのバイクシェア順調な滑り出し(英文) http://montreal.ctv.ca/servlet/an/local/CTVNews/20090627/mtl_bixis_090627/?hub=MontrealHome

○米サンフランシスコ7月はガスフリーライダー(英文) <http://www.sfbike.org/?bb&bbid=313#6>

<http://www.sfbike.org/?independence>

短距離トリップを自動車から自転車への転換を促すため、金曜日に職場で仲間を募り自転車通勤を呼びかけ。主催団体はエイドステーションを設置して参加者を激励。

○米ニューヨーク8月の土曜日、道路を歩行者・自転車に開放(英文) <http://www.nytimes.com/2009/06/30/nyregion/30streets.html?partner=rssnyt&emc=rss>

8/8,15,22の土曜日朝7時～午後1時までフルクリン橋とセントラルパークを結ぶ約11kmの区間の道路の自動車通行を禁止し、歩行者・自転車に解放。併せて多数のイベントを実施。

○summer streets program ニューヨーク市公式HP <http://www.nyc.gov/html/dot/summerstreets/html/home/home.shtml>

○カーフリーとなる区間の地図 <http://www.nyc.gov/html/dot/summerstreets/html/route/route.shtml>

○米シアトル自動車通勤減の誓約者に自転車貸し出すキャンペーン成功(英文) http://www.seattlepi.com/transportation/407626_bike26.html?source=pimail

<http://greenbikes.net/>

昨夏開始されたキャンペーンに25社の265人がトライ。約9千トリップ、1トリップあたり19kmを記録し、100人以上が誓約を達成し、貸与された自転車の所有権が1000ドルのREIのギフトカードの特典を受け取る。

○米政府のSAFETEA-LUの改正方針 <http://dc.streetsblog.org/2009/07/01/obama-administrations-transportation-goals-read-them-here/>

<http://t4america.org/blog/2009/07/01/administration-releases-their-principles-for-an-18-month-transportation-bill/>

○自転車道での転倒による脳障害後遺症者が350万ドルで和解(アメリカ) <http://www.kirotv.com/news/19192707/detail.html#>

郡が周知している自転車道上の陥没に車輪を取られて転倒、脳障害を負った人が350万ドル(3.5億円)で和解

○米サンフランシスコで自転車音楽祭(英文) <http://bicyclemusicfestival.com/6/20>にPA(電気音響)の動力・機材運搬を全て自転車で済ませるbicycle music festivalがサンフランシスコで開催。

○米ロサンゼルスで自転車道プランの説明会紛糾(英文) http://laist.com/2009/06/18/citys_bicycle_plan_flawed_says_acti.php

○ネットにより事前公開されたプラン(ネットだけの公開に対してヒスパニックやネットディバイドを考慮していないとの批判もあり)

http://www.labikeplan.org/bikeway_maps

○ミネアポリスで来年バイクシェア開始(英文)

<http://www.twincitiesbikeshare.com/>

アメリカ中西部のミネソタ州最大都市(人口38万人)ミネアポリスのNice Ride Minnesotaは80ステーション、1000台のバイクで来年5月開始予定。運営はダフィー&パートナーズ。

<http://www.treehugger.com/files/2009/03/more-schools-join-the-pay-you-to-bike-bandwagon.php>

○米NPOが自転車利用を呼びかける冊子作成(英文)

http://www.cicle.org/cicle_content/pivot/entry.php?id=2345

NPOのCICLEがアウトドアショップのREIの支援を受け、自転車のガイドブックを作成、従来のハード偏重ではなく、自転車に乗ることの楽しさをアピールするビジュアルな内容。

○米SAFETEA-LUの後継法はoffice of livabilityを新設し自転車・歩行者に重点(英文) <http://bikeportland.org/2009/06/22/oberstar-releases-full-transportation-bill-new-federal-office-would-study-cyclists-rights/>

○法案フルテキスト(775ページ1.3MBありです)

http://t4america.org/docs/062209_STAA_fulltext.pdf

○豪で自転車による重傷・死亡事故厳罰化(英文)

<http://www.bikebiz.com/news/30721/Australia-passes-tough-new-laws-for-cyclists>

<http://www.theage.com.au/national/jail-threat-for-dangerous-cyclists-20090618-cird.html>

懲役5年以下又は68千豪ドル(約510万円)の罰金。これにより自転車が交通手段の一つにふさわしい事故の低減を図るもの。